

# カウ—カエ

に仕へ、十一年正月林道春の門に入り、その高弟に數へられた。二十年七月朝鮮の聘使が来た時、通英朴進士なるものと唱和して文名大に擧つた。萬治二年太田侯の仕を辭して浪人となつたが、寛文四年大澤寺侯前田利明聘して祿二百五十石を給し、七年五十石を増し、就いてその講説を聞いた。延寶三年四月八日歿する時年六十四。

**カウノミチヨシ** 河野通義 通稱久太郎。號は淡水。老臣長氏の與力河野三郎左衛門の子で、文政十年父の祿百八十石を受けた。通義夙に河島流及び自得流の火術術に長じてゐたが、後石黒信由に數學を、本多利明に測繪を、黒川良安に天文・曆學を修め、六位十分八線表を製し、圭形即ち拋物線を研究し、文化四年及び八年出現の彗星を觀測し、文政四年以降西村太冲等と共に金澤分間繪圖の調製に従ひ、又自ら長家中分間繪圖を作り、同八年には遠藤高塚と共に彗星軌道を觀測し、嘉永三年封内の海岸に裏場築造の議があつた時、通義爲に獻替する所あつたが、翌四年六月廿八日に歿した。享年六十一。

**カエキコウ** 課役考 一冊。嘉永六年五十嵐篤好著。軍役に際して村民から人夫を出す員數等のことを辨じたものである。

**カエツキユウセキキ** 加越舊蹟記 二冊。一名寶永誌。前田綱紀が寶永元年領内村々から舊蹟等を書き上げしめたものを長瀬淵兵衛等が編集したもの。加賀國石川・河北・能美郡由來と越中國彌波・射水郡由來とに分かたれてゐる。

**カエツトウソウキ** 加越國圖記 寶永圖解

のもあり、五巻もある。又六巻になつたので見ると、まだ第四巻と第六巻との間に缺本のあることが判るから、元來七冊であつたものであらう。是等のうち初の二巻を加越國圖記として、殘餘を越州軍記或は越前軍記とした本と、全部を通じて加越國圖記とした本とがある。案ずるにもと全編越州軍記又は越前軍記であつたのを、最初の二巻に加賀の一向一揆と越前の朝倉氏との交渉を記してあるから、加賀人が加越國圖記の名を加へ、後には延いて全編をもしか呼んだのかも知れない。

第三巻以下は主として朝倉氏・桂田氏・溝江氏・富田氏・平泉寺等のことで、加越國圖記の名はふさはしくないものである。

**カエツノウカイサクガタキユウレイ** 加越能改作方舊例 一冊。一名改作方秘書。改作奉行の心得べき改作施行の沿革及び條目等を載せてある。

**カエツノウカイサクキホンライレキ** 加越能改作起本來歴 一冊。加越能三州に於ける改作に關する記録で、最後に寛永三年前田利常上洛の際本國寺を旅館とし、日翁を齎に招くに至つた次第を併記してある。

**カエツノウカチチランヒヨウ** 加越能鐵冶一覽表 一帖。領内の古刀鐵工を中央に記し、新刀鐵工を左右に分けて番附にしたものである。一に御國銘刀番附ともいふ。末に嘉永七年寅春永澤撰板とある。

**カエツノウグンダン** 加越能軍談 五冊。加越能三州の諸戰闘を記したもので、著者等は明らかでない。

**カエツノウゴウソウキユウブンロク** 加越能秘笈叢書に收めてある。

**カエツノウゴウソウサンブツキ** 加越能郷村産物記 一冊。領内郷村の産物を十村から書上げたもの、寫で、蓑・笠・紙・炭・茶・鹽・表・絹布・木綿・陶器・木地・竹籠・箕・そりけ・葛籠・白・筵・針金、その他食用品の塩魚・索麵・干瓢・串海鼠・熨斗鮑・刺鰯・海菜・木實などの出る村々を擧げてある。元祿六・七年頃の調査である。

**カエツノウゴジモンドウ** 加越能故事問答 二冊。奥書に一名金府舊記、作者未詳とある。國事昌披問答の異本と見るべきもので、記事稍縮密である。

**カエツノウコブンソウ** 加越能古文彙

**カノウエツコブンシユウ** 加越能古文彙

**カエツノウサンシユウカチケイズ** 加越能三州鐵冶彙圖 一冊。貞享三年加賀藩に於いて調査せしめた鐵冶の系圖及び由緒を記したものである。

**カエツノウサンシユウコウシデン** 加越能三州孝子傳 著者は有志亭主人とあつて、何人とも判断し得ぬが、序文によれば寛政六年春の作である。

**カエツノウサンシユウダイロドウテイキ** 加越能三州大路道程記 ↓サンシユウダイロドウテイキ 三州大路道程記。

**カエツノウサンセンキ** 加越能山川記 ↓カエツノウダイロスイケイ 加越能大路水

**カエツノウシユツタイシンソウソクメイキ** 加越能出來新村村名記 一冊。正保三年から

る名所・舊蹟・珍説を輯めたもので、森田平次

の秘笈叢書に收めてある。

**カエツノウゴウソウサンブツキ** 加越能郷村産物記 一冊。領内郷村の産物を十村から書上げたもの、寫で、蓑・笠・紙・炭・茶・鹽・表・絹布・木綿・陶器・木地・竹籠・箕・そりけ・葛籠・白・筵・針金、その他食用品の塩魚・索麵・干瓢・串海鼠・熨斗鮑・刺鰯・海菜・木實などの出る村々を擧げてある。元祿六・七年頃の調査である。

**カエツノウゴジモンドウ** 加越能故事問答 二冊。奥書に一名金府舊記、作者未詳とある。國事昌披問答の異本と見るべきもので、記事稍縮密である。

**カエツノウコブンソウ** 加越能古文彙

**カノウエツコブンシユウ** 加越能古文彙

**カエツノウサンシユウカチケイズ** 加越能三州鐵冶彙圖 一冊。貞享三年加賀藩に於いて調査せしめた鐵冶の系圖及び由緒を記したものである。

**カエツノウサンシユウコウシデン** 加越能三州孝子傳 著者は有志亭主人とあつて、何人とも判断し得ぬが、序文によれば寛政六年春の作である。

**カエツノウサンシユウダイロドウテイキ** 加越能三州大路道程記 ↓サンシユウダイロドウテイキ 三州大路道程記。

**カエツノウサンセンキ** 加越能山川記 ↓カエツノウダイロスイケイ 加越能大路水

**カエツノウシユツタイシンソウソクメイキ** 加越能出來新村村名記 一冊。正保三年から

ものである。

**カエツノウシヨウシユキ** 加越能城室記 一冊。馬淵高定著。金澤城を始め、加越能三州に存する古城砦の來歴傳説を録したものである。

**カエツノウシヨシコウ** 加越能諸事考 夫米夫銀考・普請役考・出銀考を收める。奥書に『右考説湯淺進良の又新齊日録に載之と雖、奥書姓名等無之故撰者不詳。蓋進良之自著乎云々。』と見える。

**カエツノウタイセン** 加越能大全 十八冊。内一冊總目錄。永延元年富樫氏が加賀に入つた時から萬治元年前田綱紀の初に至るまでの記事。岩原規が弘化二年から嘉永二年に至る間の著述である。

**カエツノウダイロスイケイ** 加越能大路水經 (一)原著 一冊。加越能大路水經・加越能山川記・加越能大路水經ともいふ。享保二年土屋義休著。領内河川の水源・水脈・支流等を詳記し、河流に接続する山嶽の路程をも掲げる。

(二)重修大路水經 三冊。大澤君山著。土屋義休の著を訂正したもの。跋に正徳四甲午年君山識。享保二十一年丙辰重修。とある。

(三)増補大路水經 一六冊。天保六年石黒信由が土屋義休の著を更に増補したもので、河川のみならず、湖沼・温泉・陸路のことまで記してある。

**カエツノウダイロスイゲンキ** 加越能大路水源記 ↓カエツノウダイロスイケイ 加越能大路水經。

**カエツノウチズ** 加越能地圖 ↓ソククリヨ